

荊崎市文化財保存活用施設基本計画(素案)に係るパブリックコメント実施結果について

荊崎市保存活用施設基本計画(素案)について、貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。いただきましたご意見の概要と市の考え方については、下記のとおりです。

※お寄せいただいた意見について、具体的な表現は一部言い回しを修正しています。ご了承ください。

- 1 募集期間 令和7年3月5日（水）～令和7年3月18日（火）まで
- 2 募集方法 市ホームページ・情報公開コーナー・教育課文化財担当窓口
- 3 意見提出 19名

No.	意見の要約	意見に対する市の考え方
1	ニラノメミュージアムは荊崎市の魅力を伝えることができる施設になると思うが、建設費、人件費、維持管理費などどのくらいの経費がかかるのかが心配。 新体育館との利便性を考えると、現状の民俗資料館を充実させるべき。 コンパクトで市財政に負担にならないものが良いと思う。	市内には、ご意見にある荊崎市民俗資料館(S54.6建築)をはじめ埋蔵文化財保管庫(旧大草小学校体育館)等文化財を保存・活用する施設が複数ありますが、各施設とも著しい老朽化が進行し、古文書や木製品などの有機物を適切に保管する機能を有していないことと、本市を代表する国の史跡である新府城跡の本質的な価値や調査結果等の情報を市民の皆さまをはじめ来訪者に提供する場がないことから今般、基本的な考え方を取りまとめたものです。 ご意見のとおり整備に際しては、市の財政負担への影響が大きいものと考えておりますので、今後、計画による施設規模を参考に各エリアの必要面積や市内公共施設の有効活用、立地場所など様々な角度から議論を深め、市の財政計画も念頭に整備内容やスケジュールについて慎重に検討を進めてまいります。
2	後世に残すべき歴史文化資源の必要性や、保存の重要性を分かりやすく伝えることができる施設は大切だと思う。昔の人の生活や文化を知ることで、この土地で人の暮らしが変わらず続いていることを感じることができ、それは今を生きるためにも必要だと思うからです。	ご意見にある歴史文化資源の必要性や保存の重要性を分かりやすく伝えるようにこれまでの活動を整理・発展させるために収集保存活動・調査研究活動・魅力発信活動・夢響動活動をおこなうこととしています。ニラノメミュージアムでは歴史文化を通じて将来実現させたいことに一人一人が向き合い実現に向けて一歩踏み出すための活動を展開していくこととしています。
3	イベントを通じて、荊崎の縄文の歴史や出土した土偶の美しさ素晴らしさ、文化財の魅力を再認識することができた。 このような素晴らしい文化財を展示したり、発信したりする拠点として荊崎市に博物館を作っていただきたい。	文化や歴史の継承、教育的意義、安定した情報と体験の提供、さらには荊崎を訪れる人々に深い印象と価値を発信する観光振興に寄与できるように検討してまいります。

4	韮崎全体の文化財について知ることのできる今回の施設は、天候に左右されず市民の行きやすい場所にあり、市内各地の訪れたい場所や見学地とをスムーズに仲介できることを望む。ミュージアムで歴史などを詳しく知り、実際に現地へ行って歴史を感じてもらうことが、子どもたちだけでなく、ふらっと観光に来た人にとっても重要と考える。	立地場所につきましては、施設の役割のひとつに、国史跡新府城跡の本質的な価値や調査結果等の情報を市民の皆さまや来訪者に提供するガイダンス機能を有し、見学の入口となる現地へのアクセスを考慮して検討することとしております。 ニラノメミュージアムは韮崎の歴史文化を守り発信する中核施設であり、市内に所在する文化財やふるさと偉人資料館といった展示施設をつなぎ市民の皆さまの歴史を通じた市民活動を育み、観光客へ本市ならではの魅力を発信する役割も担うこととしています。
5	博物館建設には、多くの費用がかかることと思うが、個人的には賛成。子どもが授業で韮崎について学び、一緒に色々なところに足を運ぶ中で愛着を持つようになった。子どもはもちろん、大人にとっても歴史や文化を感じ、触れ、学べる場所が大切ではないかと感じる。	ご意見のとおり整備に際しては、市の財政負担への影響が大きいものと考えておりますので、今後、計画による施設規模を参考に各エリアの必要面積や市内公共施設の有効活用、立地場所など様々な角度から議論を深め、市の財政計画も念頭に整備内容やスケジュールについて慎重に検討を進めてまいります。また、それと同時に、歴史文化資源＝先人の夢を継承しつつ広く発信し、現在及び将来の市民・来訪者が自ら夢を実現するためのヒントや生き方の羅針盤となるアイデアを得られるように検討してまいります。
6	この博物館の取り組みは、韮崎市の歴史など色々なことを知ってもらうための取り組みだと思うので大賛成。	文化や歴史の継承、教育的意義、安定した情報と体験の提供、さらには韮崎を訪れる人々に深い印象と価値を発信する観光振興に寄与できるように検討してまいります
7	「夢」という視点がとても新しい博物館と感じた。博物館が人生のうち数度行く場所ではなく、折に触れて気づきを得にいく場所となったら…と考えるとワクワクする。体験・体感型のミュージアムとして、県外からも注目されるような、また新たな価値を生み出す場としての博物館になることを期待する。	「歴史文化資源＝先人の夢」と捉えて、現在及び将来の市民・来館者が自らの夢を実現するためのヒントや、生き方の羅針盤となるアイデアを得られる取り組みになるように努めていきます。
8	市職員が昔のものや歴史について教えてくれたから、もっと知りたいと思った。博物館がそのような場所となれば嬉しい。	小・中学生の調べ学習や講座等をはじめとするワークショップにおいて、今以上に身近なものとなるように、実物資料の運用方法やデジタルアーカイブの仕組み作りを検討することとしています。
9	新府城を含め七里岩上には、縄文遺跡などが数多く存在する。現状で韮崎の文化財が分散していることは残念であり、そのような状況であったことを疑問に思う。是非、文化財保存活用施設を新設し、観光客誘致や地域の歴史を地元の方が学べる施設にしていきたいと思います。	ご指摘の通り、分散して保管されていることにより、その管理や調査に弊害が生じ、公開が十分に行われていない状況となっております。また、資料の集約化については、計画による施設規模を参考に、各エリアの必要面積や市内公共施設の有効活用、立地場所など様々な角度から議論を深めてまいります。

10	韭崎の景観に思いを馳せると、韭崎市民になって本当によかったと思う。市民と市外からの訪問者とのネットワークを広げることにより、移住者や関係人口の増加、地域観光に繋げていただきたい。ガイドのようとして散歩案内人が必要と考える。私が韭崎でみつけた感動を多くの方に伝えたいし、多くの方に実際に体験してもらいたいと思う。	ニラノミュージアムにおける「収集保存」「調査研究」「展示」は行政だけで展開せず、この活動に参加したい、響動して夢を叶えたいという方々を行うことを想定しています。この「パートナー活動」により、市民が積極的に関わりたいくなる、市民主体の活動をめざしています。 パートナー活動は、市民の「やってみたい」「夢を実現したい」という思いや考えに対し、文化財を通じて実現に向けた響動をしていくものと考えています。その組織作りについて検討してまいります。
11	市民のみならず、市外の方にも韭崎を知ってもらえるきっかけとなると思う。韭崎に来て数年だが、永住を考えている土地について詳しく知れる施設ができればとてもありがたい。	ご意見のとおり、現在及び将来の市民だけでなく、市外からの来館者が自らの夢を実現するためのヒントや、生き方の羅針盤となるアイデアを得られる取り組みをすることを目指しております。
12	韭崎市には多くの文化財があり、資料の適切な保存や管理が必要不可欠であると感じる。韭崎の資源(宝)を大切に保管して活用するため、また子どもたちに韭崎の歴史に興味をもってもらうためにも、ぜひ実現してほしい。	ご意見のとおり資料の適切な保存管理が現状では十分ではないことから、資料毎にの保存に適した環境の把握と整備をすることとしています。また、「歴史文化資源＝先人の夢」と捉えて、現在及び将来の市民・来館者が自らの夢を実現するためのヒントや、生き方の羅針盤となるアイデアを得られる取り組みになるように努めていきます。
13	韭崎市の財政状況は厳しいと考えている。まずは市民生活改善のために税金を使っていただきたい。既存の施設で十分と考える。山梨県民として、韭崎市民として、新府城を夢、希望と結びつけるのには、非常に違和感がある。今韭崎市の活性化に力を入れるべきであり、この計画には賛成できない。また市民が誰もがホームページを見れるわけではないので、市民への周知方法や意見交換の場の提供などを求めたい。	ご意見のとおり整備に際しては、市の財政負担への影響が大きいものと考えておりますので、今後、計画による施設規模を参考に各エリアの必要面積や市内公共施設の有効活用、立地場所など様々な角度から議論を深め、市の財政計画も念頭に整備内容やスケジュールについて慎重に検討を進めてまいります。 なお、計画(案)の公表方法につきましては、市のパブリックコメント制度に則り、予め市広報で募集開始の周知を行ったうえで、市のホームページ、教育課窓口における閲覧、市役所1階ロビーの情報公開コーナーにおける閲覧により行っております。 また、来年度以降、ワークショップを予定しており、市民の皆さまのご意見を伺いながら協働して事業を進めていくこととしております。

14	博物館は葦崎愛を育むきっかけづくりとなると思うので、ぜひつくっていただきたい。先人の夢から市民の夢を叶えるサポートをするというコンセプトに魅力を感じる。 現在11歳(小5)の娘の意見も以下に記す。 「博物館ができれば、たくさんの人が来ると思う。特産品を知ってもらったり、観光客が増えると思うのでつくってほしい。」	ご意見にありますとおり、ニラノメミュージアムは「歴史文化資源＝先人の夢」と捉えて、現在及び将来の市民・来館者が自らの夢を実現するためのヒントや、生き方の羅針盤となるアイデアを得られる取り組みを目指し活動するように努めてまいります。 展示等で、葦崎の文化や歴史の情報と体験を提供することで、葦崎を訪れる人々に深い印象を持っていただけるような活動に努めてまいります。
15	町内で行われた講座の際に、身近なところから発見されたものが国立博物館に収蔵されていることを知り、とても感動した。このようなことを市民がもっと知れるようにしてほしい。人口減少が進む今だからこそ、葦崎市の歴史や素晴らしさを子どもたちに伝えていく必要がある。子どもたちが葦崎の歴史を学び、葦崎はすごいところなんだ、と思える体験できる博物館ができることはとてもワクワクする。大きな博物館でなくても、身近に学べる場所があるのは嬉しい。	小・中学生の調べ学習や講座等のワークショップなどで今よりも身近に文化財の活用が進むように、実物資料の運用方法やデジタルアーカイブの仕組み作りを検討することとしています。 小中学校の授業と連携し、町に眠る歴史文化資源を幼少期から親しんでもらうことで、大人になってからもその重要性を理解し、ニラノメ活動に参加してもらえる素地づくりを行うことで、若者の夢への響動や人材成長にもつながるように努めてまいります。
16	文化財の保存と活用は重要だと認識している。既存施設の老朽化も理解できるが、計画の施設の規模が大きい。財政状況から考えて、本当に今必要なのか、また既存施設の活用を考えるべきではないか。市民の声が届いていないことと市民への周知が不足していると感じる。市民の声を聞く機会を多くもっていただき、豊かな文化継承をお願いしたい。	ご意見のとおり整備に際しては、市の財政負担への影響が大きいものと考えておりますので、今後、計画による施設規模を参考に各エリアの必要面積や市内公共施設の有効活用、立地場所など様々な角度から議論を深め、市の財政計画も念頭に整備内容やスケジュールについて慎重に検討を進めてまいります。来年度以降、ワークショップを予定しており、市民の皆さまへの周知を図るとともに、ご意見を伺いながら協働して事業を進めていくこととしております。
17	葦崎市内で多くの大切な文化財が収蔵されていると承知しているが、今回の計画はあまりにも唐突と感じる。既存の施設で十分ではないか。博物館が必要な施設とは思わない。市民生活のために財源をあてるべきではないか。この計画をもっと市民に広く周知いただくことを望む。	来年度以降、ワークショップを予定しており、あらゆる機会を通じて市民の皆さまへの周知を図るとともに、ご意見を伺いながら協働して事業を進めていくこととしております。
18	・パブリックコメントの募集期間が短く市民は情報を受け取りきれておらず、丁寧な説明が必要。また広く市民の意見を聞きたいのであれば、「広報」や「回覧板」を使用すべきである。 ・現在の体育館建設費用を出費することに強い不安を感じている。葦崎市は人口減が続く「消滅都市」に数えられ、財政も厳しくなっていく状況。長期的な社会情勢を見極めて、市民の声をじっくり聞き、市民感覚を確認したうえで検討して欲しい。	・パブリックコメントにつきましては、市のパブリックコメント制度に則り、他の計画における募集期間も参考に、予め市広報で募集開始の周知を行ったうえで、市のホームページ、教育課窓口における閲覧、市役所1階ロビーの情報公開コーナーにおける閲覧により行っております。 ・整備に際しては、市の財政負担への影響が大きいものと考えておりますので、今後、計画による施設規模を参考に各エリアの必要面積や市内公共施設の有効活用、立地場所など様々な角度から議論を深め、市の財政計画も念頭に整備内容やスケジュールについて慎重に検討を進めてまいります。

19	・これまでの市民への周知方法及び今後の市民への意見調査予定を知りたい。一般への広い周知を望む。 ・財源の詳細を知りたい。また施設ができた場合にかかるランニングコスト及び保全費用を知りたい。 ・市民生活の安全・安心を守ることを優先に考えると本事業の優先順位は低いと考える。	・事業案につきましては、市のパブリックコメント制度に則り、予め市広報で募集開始の周知を行ったうえで、市のホームページ、教育課窓口における閲覧、市役所1階ロビーの情報公開コーナーにおける閲覧により行っております。 - また、来年度以降、ワークショップを予定しており、市民の皆さまのご意見を伺いながら協働して事業を進めていくこととしております。 ・整備にあたっての財源としましては、文化庁の「歴史生き活き！史跡等総合活用整備事業費国庫補助金」、内閣府の「デジタル田園都市国家構想交付金」、国土交通省の「社会資本整備交付金」などの補助事業を活用し、特定財源の確保に努め、市の財政負担の軽減を図ってまいります。また、ランニングコスト及び保全費用につきましては、今後、計画による施設規模を参考に各エリアの必要面積や市内公共施設の有効活用、立地場所など様々な角度から庁内で議論していくこととしており、その過程において施設の規模や職員体制に応じて試算していくこととなります。 ・事業案においては諸準備に要する期間を考慮し、最短で令和14年度の開館としておりますが、ご意見のとおり市として優先して対応すべき事案があるものと認識しております。今後の検討過程において、市の財政計画との整合性を図りつつ優先順位をつけて整備スケジュールについては柔軟に見直すこととしております。
----	---	--